

エジプト ブドウの輸出シーズンを前に育種家の権利保護を再確認

[The Grape Reporter 2025年4月15日](#)

エジプトのブドウは新しいシーズンを迎えようとしている。新規市場の開拓に伴い、世界的な需要は高まっている。シーズン開幕に先立ち、エジプト中央植物検疫局(CAPQ)の責任者であるモハメド・マンシ博士は、育種者連盟のダンカン・マッキンタイア会長と主要な生食用ブドウ育種会社の代表者を迎えた。双方は、戦略的な輸出作物としてのブドウの重要性を確認した。近年、育種家達は多くの高性能な生食用ブドウの新品種をエジプトに導入し、現在ではエジプトの主要な生産者によって栽培されている。

これらの新品種は、生産性と品質の向上、耐病性、風味、食感など、今日の国際市場が要求するすべての属性が強化されている。これらの新品種はすべて、植物品種の権利に係るエジプトの法律の下で保護されている。CAPQは、これらの権利を侵害する農場や輸出業者の輸出コードを取り消す意向を改めて確認した。

双方は、違法な果実のエジプトからの輸出を防ぐことは、輸出先の市場でそれらを摘発するよりもはるかに良いことに同意した。とは言え、マッキンタイア会長は、違法な果実の輸入を防ぐため、育種者連盟がヨーロッパと英国の税関当局と緊密に協力し、市場での監視活動を強化することを約束した。

CAPQは、農業・土地改良大臣の命令に基づき、輸出コードシステムを管理している。同局のスタッフは、育種者からの有効なライセンスなしにこれらの新品種を生産している疑いのある農場からサンプルを採取する。これらのサンプルは、新たに設立された同局のラボでDNA検査される。

一行は、カイロ国際空港のラボも訪問し、そのスタッフとDNA検査技術について意見交換を行った。

韓国 厳しい春霜でナシ農場に被害

[FreshPlaza 2025年4月16日](#)

果樹園経営者のイ・ミスク氏は、慶尚北道尚州市沙伐^{サボルグクミン}国面地区でナシの花に花粉を振りかけながら、「子房がないのに花粉を調べて何の意味があるのか」と語った。季節外れの春の寒波により、花の雌しべが黒く変色し、霜焼けのような損傷を受けていた。イ氏は、「30年以上ナシを育ててきたが、花がこのように凍って枯れるのを見たことがない」と述べた。主要なナシ産地である沙伐国面地区では、3月30日に気温が摂氏マイナス5.2度まで下がり、雌しべが枯れ、果実の生産が停止した。地元の推定によると、90%以上の農場が影響を受け、花は4月13日の別の寒波によってさらに被害を受けた。

沙伐国面のパク・ジョンウク地区長は「通常は年間約500億ウォン(3,500万ドル)相当のナシを販売するが、今年は50億ウォンだろう」と述べた。3月中旬に暖かい日が続いたこと等の不規則な天候により、早咲きとなり、その後の気温の急落で雌しべが死んでしまった。生産者が使用した送風機はほとんど効果がなかった。韓国農業協同組合中央会沙伐国面支部ナシ輸出部会のイ・ソンデ代表は、「一部の農場では、花の最大99%が不稔であると報告している。金を借りてナシを育てていた若い移住者達は、完全に絶望している」と述べた。

モモやリンゴなどの他の作物も不安定な天候に見舞われた。忠清北道では、4月14日までに545件の低温被害が報告され、そのうちモモが210件を占めた。リンゴの生産は、寒波による被害と最近の慶尚北道の山火事によって脅かされている。

気候の専門家は、春の天候の異常は地球温暖化によるもので、早咲きと寒波に対する脆弱性を引き起こしたと考えている。ソウル大学のチョン・スジョン教授は、「これまでは、温暖な天候と早い開花が作物の生産性を高めると信じていた。だが、今見ている事は逆で、春の霜害の頻繁な発生と生産性の低下だ」と述べた。

生産者は、気候関連災害の研究と対策を求めている。一部の国では指標に基づく気象保険を導入しているが、韓国では、霜害を部分的にカバーする作物災害保険に加入している生産者は半数に過ぎない。チョン教授は、被害を最小限に抑え、インフレを抑制するための気候適応政策の必要性を強調した。

出典: [Korea JoongAng Daily](#)